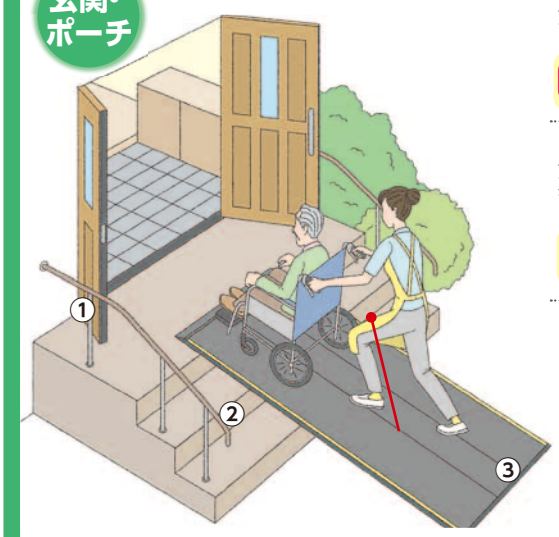
住宅・安全管理

安全な環境を整えることで、安心した生活を送れます。

住宅改修の目的に「事故防止」「自立の促進」「介護負担の軽減」があげられます。

危険を察知して、事故を未然に防ぐ安全な住宅環境が理想的です。

玄関・ポーチ



ケース①
玄関扉の開口が狭く通りにくい。
解決! 3枚引き戸や親子扉に取替え

ケース②
玄関前に段差があって、歩行で昇降する事が不安。
解決! 屋外用手すりの設置

ケース③
玄関前に階段があって、車椅子の移動が出来ない。
解決! 階段をスロープに改修工事 必要な時だけ簡易スロープを設置

ケース④
車椅子に乗ったまま、玄関框の昇降が出来ない。
解決! 玄関スペースや中庭などに段差解消機を設置

ケース⑤
上がり框が高くて、昇降が危険。
解決! 手すり・段差解消台・椅子式段差解消機の設置

廊下

少しの段差や滑りやすいフローリング廊下による転倒事故を防ぎます。

ケース①
廊下は壁を伝って歩いている。
解決! 壁に手すり設置

ケース②
敷居の段差があるので車椅子では上がれない。
解決! 敷居用スロープ設置

寝室

ベッドにスムーズにたどり着くための対策も忘れずに。

ケース①
畳の部屋で歩行器や車椅子が進みにくい。
解決! フローリングへ変更

階段

階段の踏み外しや転落で怪我や大きな事故が起こる前に対策しましょう。

ケース①
階段の壁を伝って昇り降りをしている。
解決! 階段の壁に手すり設置

ケース②
階段の踏み面が滑りやすく不安。
解決! 滑り止めシートを貼る（つまずく方は注意が必要）

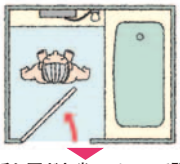
ケース③
手すりがあっても昇り降りが出来ない。
解決! いす式階段昇降機設置

浴室

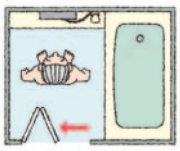
浴室での転倒は大変危険です。先を見据えた対策も必要です。

ケース①
内開き戸を開口したときに洗い場のスペースが狭くなり動きづらい。
解決! 折れ戸に変更

開き戸だと開閉時シャワーベンチにぶつかる。



折れ戸だと省スペースで開閉できる。



ケース②
浴槽の縁が高く恐る恐る跨いでいる。
解決! 深すぎないユニットバスなどへ交換

ケース③
湯船に入る際に滑りやすい浴槽縁やタオル掛けにつかまっている。
解決! 手すり設置

浴槽縁の高さは35～40cm位、浴槽の深さは55cm位を目安とします。（使用状況によります。）

トイレ

より安全で、安心して立ち座りが出来るトイレ環境を実現しましょう。

ケース①
段つきの和式トイレで立ち座りが危険。
解決! 補高便座設置で洋式へ変更

ケース②
和式トイレで立ち座りが危険。
解決! 洋式便座にリフォーム

ケース③
洋式トイレだが立ち座りが恐い。
解決! 手すり設置